

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101335		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい香貫	ユニット名	1F
所在地	静岡県沼津市下香貫楊原530-16		
自己評価作成日	平成26年3月4日	評価結果市町村受理日	平成26年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101335-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成26年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さな家庭菜園での野菜作り収穫を、利用者様と一緒に楽しんでいます。近隣の商店への買い物を行ったり、町内の子ども会による夏祭りの踊りなどに来所頂いたり、行事への招待やおすそ分けを行い交流を行っています。利用者様の経験を活かした、干し柿作り、梅干作り、ぼた餅作りなど、季節を感じて頂くと共に出来る力を発揮して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地に立地し、地域と連携しながら季節の行事や催しをいっぱい楽しんでもらえるよう全職員が知恵を絞って工夫を凝らしているホームである。日常でも買い物や掃除、干柿や梅干し作り、家族やボランティアによる演奏会、懐かしの映画鑑賞会等々様々な方面の力をいただきながら利用者本位の暮らしの支援をしている。管理者・ケアマネジャー・各フロアリーダーの信頼関係の下全職員が統一したケアの実践で家族の信頼も厚い。介護度の高くなる利用者にも少しでもメリハリのある暮らしを楽しんで頂けるゆったりと飾らない普段着の支援は何よりもこのホームの特筆点である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、理念の唱和を行っています。	企業理念、事業所理念、および年度目標を掲げ毎朝唱和することで意識付けを図っている。年度目標については成果発表の機会があるため常に問題意識を持って理念に適った介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の商店への、買い物などを通じて交流を実施しています。	自ら進んで挨拶するとの姿勢で地域に積極的に馴染んできており、老人会招待や地域役員変更の際の挨拶廻りも来ていただく関係作りがされている。総会出席や回覧板の活用等地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方の施設見学等の希望があった時には、可能な限り説明させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況の報告、ヒヤリ事故報告などを行い、改善等についての報告も行っています。意見を頂いた時には実行出来るよう努めています。	地域包括支援センターの協力により年間予定表が作成され定期的に開催されている。介護相談員や利用者・家族参加の下、ヒヤリハットの報告や事故を防ぐための信頼関係構築について話し合う等理解を深める場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム会議への参加や、介護保険申請時など担当者の方との話などさせて頂いています。	グループホーム地域ケア会議の支援や、法令改正の際の研修会開催の案内、各種情報の配布、申請業務等密接な連携でサービスの向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ポスターを貼り、意識付けを行っています。玄関の施錠時に外出希望のある利用者様には、開放するよう努めています。	フィジカル・スピーチ・ドラッグの各拘束について研修し、職員は理解している。スピーチロック等疑われるような場合は注意を促し確認合っている。玄関は構造上閉まっているが外に出たい利用者には開放し、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の安全面、声かけ、言葉使い等の言動について徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者ケアマネは、学んでおりその他職員にも周知されている。必要と思う利用者様には、活用出来る様関係者に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、面接訪問など行い入居時に、重要事項説明書や契約書にそって説明、質問に答えている。退居時にも、説明を行い解約の手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行っている。利用者様ご家族様との会話に努め、ご意見や要望を聞くよう努めています。	家族の意見や要望を引き出すためには、疎遠になりがちな家族にも更に連携を深めていただくよう面会の機会を作り、共に行動できるよう図っている。その際に伺った意見は運営に反映させている。	重要事項説明書等については十分な説明がされ承諾をいただいているが、理解されていない場合もあるので必要に応じて更に説明して解釈の違いがないよう取り組んでいただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時など、職員の意見を表現、発言できるようにしている。	キャリアパス制度で職員の向上心を引き出している。フロアミーティングや全体会議の場で学んだことの報告書を提出しそれを代表者等が検討し運営に取り上げてもらえる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績、勤務状況など、毎月代表者に報告、把握できる状況です。キャリアパスを取り入れ、やりがいをもてる環境整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、資格修得、社外研修など、参加できるようシフト調整など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会議への参加などで、施設外の方と交流を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを汲み取る為に、傾聴の姿勢で面談に努めます。可能な限り、本人に関わった方々からの情報も頂き、安心、信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談やセンター方式のツール使用で、ご家族の思いを受けられるよう努めると共に、介護に携わった思い、ご苦労に思いを寄せます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望されるご本人家族の意向を汲み取る様努めるが、本人家族にとって入居が最善の方法なのか見極めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事洗濯掃除等、可能な事は協力いただくほか、身体的に不可能な方からも人生の先輩として、豊富な経験や知識を出して頂けるような話しかけに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院対応、面会のほか、施設行事へのお誘いをし、ご家族との絆を深めて頂くよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出外泊の支援をします。ご本人やご家族からの情報収集を行い外出に繋げています。	利用者の自宅近隣の方が訪問してくれたり、また、お孫さんに手紙を書いていただくよう計らったり家族の墓参りに付き添う等、大切な方々との関係が途切れないよう周囲の方の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の、性格や人柄生活史等を考慮し、関係が良好になるよう席の配置や見守りに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人家族様より、希望依頼があれば必要に応じた対応に努めている。恒例行事などへのお誘いをする事もあり、良好な関係作りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成に際し(3ヶ月・6ヶ月)ご本人ご家族様より希望意向を伺い、ケアマネジメントに活かしている。生活の中での、希望意向等傾聴に努めている。	利用者との日常の会話の中から本人の希望や思いを汲み取っている。本人との会話の中で気になるキーワードを見つけて話しを深め、利用者のパチンコに行きたいという願いを叶えたこともある	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご本人ご家族、居宅ケアマネ等より情報を頂くほか、日頃の会話や面会時にも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日課はあるが、個々の状況に合わせ柔軟な暮らしの支援に努めている。画一的な支援でなく、個別支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直し時、心身状態が変化した時は、サービス担当者会議(ご本人・家族を含む)を随時行い多職種の意見を反映し介護計画を作成している。	モニタリングや職員が書き込んだ利用者の記録や情報を基に本人の希望をまとめ、介護計画を立てている。担当者会議で作成したケアプランは家族に連絡して来てもらい、説明して確認をとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日誌、申し送りノートの活用。朝夕の申し送りで情報共有、流れのある介護に努めている。記録時、介護計画との一致にも努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や物品購入、外出支援など一人ひとりの状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の神社への参拝や散歩、スーパーへの買い物同行を行っています。節分餅つき等手作りの品を、ご近所へおすそ分け等を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、医療機関の確認を行っている。ホームの医療連携の説明を、ご本人ご家族へ行っている。医療連携として、毎月2回の往診急変時24時間の対応などがある。	月2回の往診があり、入居前のかかりつけ医には家族が付き添い、本人や家族が希望する医療機関に受診している。緊急時には家族に連絡し、協力医に受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	巡回看護師とは、24時間で連絡対応が可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどから、情報収集し、状況の把握メンタル面などに考慮し、退院に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについて、ホームで出来ること出来ないことを含めて、ご家族に報告説明を行っている。意向を書面に記入して頂き、状況変化の時には、再記入して頂いています。	入居時に、家族や本人に重度化した場合の対応について事前に確認をとっている。重度化した場合には、再度事業所で出来ることや救命措置について改めて家族と話し合い、職員は社内研修や委員会に参加して、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを通して対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。ほか地域防災訓練への参加も行っている。	年2回の防災訓練は、消防署や近隣に事前に報告し夜間を想定した訓練を行った。地区の防災訓練には利用者も参加した。津波の場合の避難については運営推進委員会でも話し合われ、1週間分の水や食糧の備蓄がある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持って接し、その方の生活歴など把握し尊敬した上で、言葉使いや接し方対応など、不快感を与えないよう注意しながら心掛けています。	個人の書類は職員以外には見えなところに保管し、声掛けについては、利用者や職員も堅苦しくならないよう、なおかつ、尊厳を損なうことの無いように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	穏やかに話しやすい雰囲気作りをし、ゆっくりと答えて頂けるように声かけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、体調の変化に気を配りながら日常生活と一緒に無理のない様に尊重し、穏やかにゆったりと過ごせる様心掛けています。又、興味を持って頂ける様な支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院を利用される方への、各々の支援と化粧等、楽しみを持って頂けるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	餃子作りなど、スタッフと一緒に可能な方は行っています。又、野菜もやしの芽取り、食器拭き、お盆拭き等お手伝い頂いています。自力での食事配膳、声かけにて行っています。	利用者の希望やその日の様子等で献立を考え職員が当番で食事を作り、見守りながら食事をしている。食後の食器拭きや干し柿やぼたもち作り等、利用者と職員と一緒に楽しんで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量(水分含む)の記録記入や個々に応じた食事の提供、誤嚥ムセがある方の食事形態の工夫(刻み・ペースト)にて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のレベルに合わせて、声かけし付き添いながら、口腔ケアの介助をします。舌ブラシを使用支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意のある方には、自立支援を心掛けています。排泄表を活用し、パターンの把握に努めています。	排泄表でチェックし、時間での声掛けや様子を見て誘導を行ったり、パットの交換をし、トイレでの排泄支援を行っている。自立している利用者や、紙おむつからリハビリパンツになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳や乳製品の提供を行っています。又、家事活動、レク活動等身体を動かして頂く様働きかけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴スケジュールは有るが、強制ではなく、ご希望に添えるよう努めています。	週2回、午前中に入浴を行っている。入浴を拒む利用者に対しては、拒む理由と個々に合った方法を探しだし、声掛けのタイミングやきっかけを作って、工夫して入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に、必要に応じて安静に頂いたり、就寝時間も特に決めず、リラックスして入眠して頂けるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表には、それぞれ服薬が把握出来るようになっている。又、個人ファイルには処服薬内容を掲示し、薬副作用について、知識向上に努めている。変更時には、申し送り等で伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時又は、面会時などに情報の収集を行うなど、把握に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出希望の利用者様には、可能な限り支援できるよう努めています。誕生日企画では、墓参りの希望などに対して、出来る限り希望に添えるよう努めています。	月1回、行事予定を立てて外出を行っている。本人の希望で家族と外出したり、毎日の散歩はできなくても、ベランダへ出での洗濯物干し、近所へ夕食の買い物、近くの病院へ徒歩で行く等、外気に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望などの対応として、立替での支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話の取次ぎなどご希望時には、支援させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の改善に可能な限り努めています。年間行事に合わせ季節を感じて頂くよう、掲示物の工夫に努めています。又、施設内での野菜の収穫等で、季節を感じて頂けるよう工夫しています。	共有の居間は明るく、ベランダへ出る窓からは外の自然の変化を見ることができる。卵の殻で作った利用者手作りのお雛様や季節の飾り、廊下の壁には、外出や行事の写真、昔懐かしいポスター等が貼られ、落ち着いた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の自席やソファへの移動など自由に行い、気心の知れた方同士会話も弾んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、家具などを可能な範囲で持ってきて頂いています。	各々の居室は掃除が行き届き、ベッドとタンスの他に、鏡台や仏壇が置かれていたり、利用者本人が書いた習字の掛け軸や家族から送られ絵が飾られている部屋等、その人の状態や好みに合った居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部の整理整頓に心がけ、居室内は利用者様の機能を発揮出来る様、ベッドの位置など、工夫させて頂いています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101335		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい香貫	ユニット名	2F
所在地	静岡県沼津市下香貫楊原530-16		
自己評価作成日	平成26年3月4日	評価結果市町村受理日	平成26年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101335-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成26年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さな家庭菜園での野菜作り収穫を、利用者様と一緒に楽しんでいます。近隣の商店への買い物を行ったり、町内の子ども会による夏祭りの踊りなどに来所頂いたり、行事への招待やおすそ分けを行い交流を行っています。利用者様の経験を活かした、干し柿作り、梅干作り、ぼた餅作りなど、季節を感じて頂くと共に出来る力を発揮して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り、朝礼時に理念の唱和を行っている。	※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会総会への参加。近隣へ買い物に行き交流を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方より、電話や来訪で、施設や介護についての質問のあった時には、可能な限り説明や相談をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況報告等を行っている。行事への参加についても、案内を行い参加して頂いています。意見を頂いた時には、全職員への報告も行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の月1回の訪問や、グループホーム会議への参加など市との連携を図っています。運営推進会議への案内をすると共に、諸手続きの為市役所へ行った時には、担当者と話をさせて頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないポスターを入り口に掲げ、職員全員に意識付けを行っています。建物の構造上、ロックが掛かってしまうが、希望者に対しては開けるよう努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の安全、健康面など配慮すると共に、ミーティング、申し送り、日常での言葉使い、声かけについてなど、言動について徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者ケアマネは学んでおり、そのほか職員への周知に努めています。必要と思う利用者様がおられた時には、活用できるよう関係者に繋がります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、面接訪問など行い入居時には、重要事項説明書や、契約書に沿って説明、質問に答えています。退居時にも、説明を行い解約の手続きを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行っています。利用者様ご家族の方との会話に努め、ご意見やご要望を伺うよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時など、職員の意見を表現発信できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績勤務状況など、毎月代表者に報告、把握出来る状況です。キャリアパスを取り入れ、やりがいを持てる環境整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、資格修得、社外研修など、参加できるようにシフト調整などを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会議への参加などで、施設外の方との交流を行っています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを汲み取る為に、傾聴の姿勢で面談に努めます。可能な限り、本人に関わった方々からの情報も頂き、安心、信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談やセンター方式のツール使用で、ご家族の思いを受けられるよう努めると共に、介護に携わった思い、ご苦労に思いを寄せます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望されるご本人家族の意向を汲み取る様努めるが、本人家族にとって入居が最善の方法なのか見極めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事洗濯掃除等、可能な事は協力いただくほか、身体的に不可能な方からも人生の先輩として、豊富な経験や知識を出して頂けるような話しかけに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院対応、面会のほか、施設行事へのお誘いをし、ご家族との絆を深めて頂くよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出外泊の支援をします。ご本人やご家族からの情報収集を行い外出に繋げています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の、性格や人柄生活史等を考慮し、関係が良好になるよう席の配置や見守りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人家族様より、希望依頼があれば必要に応じた対応に努めている。恒例行事などへのお誘いをする事もあり、良好な関係作りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成に際し(3ヶ月・6ヶ月)ご本人ご家族様より希望意向を伺い、ケアマネジメントに活かしている。生活の中での、希望意向等傾聴に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご本人ご家族、居宅ケアマネ等より情報を頂くほか、日頃の会話や面会時にも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日課はあるが、個々の状況に合わせ柔軟な暮らしの支援に努めている。画一的な支援でなく、個別支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直し時、心身状態が変化した時は、サービス担当者会議(ご本人・家族を含む)を随時行い多職種の意見を反映し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日誌、申し送りノートの活用。朝夕の申し送りで情報共有、流れのある介護に努めている。記録時、介護計画との一致にも努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や物品購入、外出支援など一人ひとりの状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の神社への参拝や散歩、スーパーへの買い物同行を行っています。節分餅つき等手作りの品を、ご近所へおすそ分け等を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、医療機関の確認を行っている。ホームの医療連携の説明を、ご本人ご家族へ行っている。医療連携として、毎月2回の往診急変時24時間の対応などがある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	巡回看護師とは、24時間で連絡対応が可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどから、情報収集し、状況の把握メンタル面などに考慮し、退院に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについて、ホームで出来ること出来ないことを含めて、ご家族に報告説明を行っている。意向を書面に記入して頂き、状況変化の時には、再記入して頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを通して対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。ほか地域防災訓練への参加も行っている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設会議等で、統一した声かけを行い、その方の生活史を考慮しながらの支援に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場での接する機会に声かけや傾聴に努め、希望などを伺うよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休息したい方、趣味をされたい方など個々のペースに合わせて過ごして頂いています。飲み物等苦手な方には、ゼリーやフルーツ等の提供に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など好みを把握し、見守り声かけの更衣の支援に努めています。又、訪問美容を手配し、利用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方は、料理のご意見、調理の下ごしらえ、食器の片付け等手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の飲水量、食事量の記録の記入や、個々に応じた飲水形態、食事形態を工夫しています。食事中は、職員が見守り支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に食後の口腔ケア、舌ケア、仕上げ磨きの徹底を行っています。ケア用品は、個々に適したものを提供するなど工夫に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意のある方は、自立支援を心掛けています。排泄表を活用し、パターンを探り声かけ誘導、オムツ使用の軽減等心掛けています。立位困難な方は、2人介助にて支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す食物を提供しています。毎朝の乳製品の提供、体を動かす等の働きかけを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴スケジュールはあるが、希望のある方には、曜日時間帯を変更し、提供できるよう努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせ、昼食後に安静時間など設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作り、薬の変更、臨時薬の処方があった時は、変更の記入、様子観察、報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、又は、ご本人の会話より好きなことを探り出しています。又、面会時などにご家族様より伺っています。編み物、計算書道等出来る力を継続できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お誕生日では、ご家族様の予定を伺い、ご本人の希望を伺うなど、外出等実施しています。近所への買い物散歩は、出来る限り添える様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居されている方が、現金をお所持することは、ご遠慮して頂いていますが、近所の商店では、職員が付き添い、立替払いで、買い物を楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいます。本人の気持ちを尊重し、ご家族様よりはがきが届くよう協力して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう、毎月ディスプレイを工夫しています。カーテンで光の調整や口調にて過ごし易い環境づくりを行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	良好な関わりを、考慮しての席の配置に努めている為、自らのなじみの席着き会話をされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの家具や、寝具を可能な限り持ってきて頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分の整理整頓や、居室の入り口に表札を張るなどの工夫を行っています。		